

天水町の産物は、みかんと米づくりに
すが、みかん栽培は古くから丘陵地帯に
行われ、最古のものは、小みかん、すな
わち紀州みかんで景行天皇の頃から伝
えられています。細川藩時代から温州み
かんが次第に植付けられ、殊に十五年前
の果振法施行以来急速に増殖され現在は
耕作面積千四百ヘクタールに及んでいま
す。

全面石垣積みによるみかん園は、全国
的にも稀に見るものであります。
また適地適作で味が自慢の天水みかん
として主要市場に出荷し高く評価されて
います。

しかし四十七年以来生産過剰により価
格が低迷しており、将来の経営をいかに
合理化し、生産コストを下げ、所得向
上を図ってゆくかが大きな課題として、
町自体はもちろん金峰山地域果樹濃密生
産団地である天水、玉東、河内三町と関
係農協で協議会を設置し、オレンヂベル
ト地帯の農業経営の安定向上を図ること

を目的に道路網の整備、生産、防除施
設、品質の改良及び統一、流通の合理化
等の推進に努力しています。
一方本町の平地は往時海辺であり、主
に加藤、細川時代に於て干拓された水
田五百十ヘクタールに稲作栽培がされて
いますが、みかん作と稲作との労力調整
が緊要であり、四十五年度より第二次農
業構造改善事業として四百三十ヘクタール

の県営圃場整備事業を進めています。
これに関連して農協において四十九年
にライスセンターを設置し三百二十ヘク
タール分の籾の乾燥、糶摺、貯蔵の一貫
作業を行い省力化を図り、みかん米づ
くりの労力調整に効果をあげておりま
す。

さらに圃場整備事業が施行された地域
は、野菜振興の条件が整い、県特産地の
指定を受けカボチャ、メロンの栽培が年
々増反されており、所得の向上とともに
に、若い農業後継者に将来への明るい希
望を与え大いに成果をあげております。
明るく、住みよい、公害のない、きれ
いな町づくり。

(1) 総合グラウンドの建設
町民の体育向上と融和をより高める
ため三ヘクタールの用地を買収し五十
年度より着工、芝生の植こみ、ナイタ

度に完成。完全燃焼の焼却炉、破砕
機、プレス機を備え本年四月より操業
しています。ゴミ処理には、可燃物、
不燃物に各世帯で分類徹底することが
最も重要な課題ですが、幸に本町は四
十八年より各世帯にスピーカーを備え
役場より一斉放送、部落単位放送ので
きる独特な施設をし、放送しており、
ゴミの分類が徹底しますので、無煙、
無塵、無臭の処理ができる公害の苦情は
全くありません。

(5) 老人福祉施設
四十九年より温泉つき老人憩の家を
開設、五十年度の利用者は千七百九十
四人、一日に約七十人が温泉に浴し、
ゲートボールなどを楽しみ大変喜ばれ
ています。

(6) 文化、史跡、観光など
天水町には、石器文化の遺跡が各所
に点在しこれまで、石器、石鏃、土器
その他多く発掘され古代人の生活に好
適の場所であったことを立証していま
す。

また小天子宮の毎年十月十五日の
祭礼「火渡の神事」は有名な行事とし
て広く知られております。
なお夏目漱石の名作「草枕」を執筆
した漱石記念館が保存されています。
文学者など知識人の来場者年間約六
百人にも達しています。
近くに漱石ゆかりの温泉旅館「那古井
旅館」があります。(天水町)



▲ 天水町のみかんは適地適作で味が自慢、出荷市場で高い評価をよんでいます。



▲ 老人いこいの家でゲートボールを楽しむ人たち。



▲ ふるさとづくりの「核」公民館でつどう若者たち。



▲ 無煙、無塵、無臭の処理ができる塵芥処理場。



▲ 籾の乾燥、摺、貯蔵の一貫作業を行うライスセンター。